

令和7年度 第1回川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会
会議録

日 時 令和7年7月23日(水) 午前10時00分～午前11時20分

会 場 キュポ・ラ本館 7階
メディアセブン プレゼンテーションスタジオ

審議参加者 【委員】江田由佳、増淵久美子、沼口弘、山野栄三郎、鈴木和子、竹本佳標、新井梓、木村利充、宮田郁実、海老原和江、高橋義樹、吉野浩一

【事務局】秋葉教育総務部長、高野中央図書館長、萩原前川図書館長、田口新郷図書館長、川野横曾根図書館長、高野戸塚図書館長、本多鳩ヶ谷図書館長、中央図書館小林庶務係長、宮崎サービス第1係長、増田サービス第2係長、本山副主幹、橋本主査、茂出木主査

欠 席 者 【委員】江連俊隆、大上恭子、片倉有紀

議 題

- ア 令和6年度図書館及び映像・情報メディアセンターの利用状況と事業報告について
- イ 「川口市子ども読書活動推進計画(令和3年度～令和7年度)」の令和6年度における取り組み内容・実施状況について
- ウ 図書館業務補助委託について
- エ メディアセブン利用料金について

1 開会

2 議長選出、会議成立の宣言と会議録署名委員の指名

川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第1項により会長が議長となった。

議長は、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会条例第7条第2項により定足数を満たしたことにより、会議の成立を宣言するとともに、川口市図書館・映像・情報メディアセンター運営審議会規則第4条第2項により会議録署名人として増淵副会長を指名した。

また、「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」の規定に基づき、この会議は公開である旨を宣言し、傍聴人が1名いることを報告し、委員の了承を得て傍聴人を入場させた後、議事を開始した。

3 議事

○ 議題アについて、資料1に基づく

[意見・質問と回答]

委員

学校関係に出張されて、本の楽しさを伝えているとのことだが、具体的にどんなことをしているのか。学校によって、依頼があるところとないところとどんな違いがあるのか。とても良いことなので全学校を回ってもいいのではないか。

校長先生次第なのか、回るには限界があるのか、先着順ということなのか。

事務局

内容については議題イで詳しく説明するが、図書館司書が各学年に対応したもので、様々なジャンルから本を選んで紹介を行っている。依頼については、特に違いはないが、毎年4月に各学校に学校連携授業についてチラシを配布している。それを見て授業の一環としての依頼であったり、8月末のサマースクールの中での依頼、また、秋に各学校で読書週間の取り組みがあるので、そちらの方での依頼があったりする。可能な限り、多くの学校で実施したいが、市内52校あるため、なかなか難しい現状ではある。

ただ、周知はしており、依頼は毎年少しずつ増えている。

なお、今は先着順ではなく、依頼があった学校をすべて回っている。依頼するかどうかは多少学校の裁量はあるかと思う。

他に意見・質問なし

○ 議題イについて、 資料2に基づく

[意見・質問と回答]

委員

ファーストブックの選書について。5冊の中から1冊、市からのプレゼントということで、出生届出時に渡されている。スタート時は司書が選書に関わっていたと聞いた。先日、子供たちのところに訪問した時、お母さんたちから「ぱちんぱちん」という本をもらったと聞いた。色々ないい本が出ていて、様々なところでファーストブックが行われているが、この本は見たことがない。いつの間にかこれに変わっていた。ファーストブックの選書はどのような形で行っているのか。

せっかく、赤ちゃんが初めて手にする本。市からのプレゼントということでもあり、いい本を手にとってもらいたい。

事務局

ファーストブックについては、現在、市民課、支所、行政センターで配布されている。最初は図書館司書が5冊選書したが、途中から、市民課の方で川口市出身の方の絵本「ぱちんぱちん」を採用したと仄聞している。他4冊については、図書館で責任を持って選書をしている。

委員

各学校に図書室があり、読み聞かせや本の整理などを行ってくれるPTAやボランティアの保護者がいるが、図書室に出入りできる時間帯等が限られている。可能であれば、学校との話し合いのもと、例えば土日貸し出している体育館のように図書室を貸し出してもらいたい。

現在、本の老朽化が顕著である。最近では書籍も2000円近くするため、なかなか新しく購入することは難しいかと思う。中古書籍を扱うような業者からなら、より安価に入手することも可能ではないか。そのようなシステムも利用できないか、教育委員会等も含めて検討して欲しい。

また、夏休みにおすすめる本として紹介されたものを購入し、夏休みの読書感想文として提出するということが昔はあった。子供に意欲を出させるために、例えば小学1年生に本を渡して必ず配布するなど、予算的に厳しいかとは思いますが、ある程度強制した方が興味を持つきっかけになり易いのではないか。

事務局

学校内の図書室については、なかなか難しいところではあると思うが、担当課にも共有する。先ほどの蔵書の関係についてだが、学校内の古い本や壊れた本については、学校図書館司書やボランティアの方が、修復ができるよう、指導課と合同で毎年、図書館から司書が講師として出向き、本の修理の仕方等について学校図書館司書に研修を行っている。

また、おすすめ本について、リーフレットを配布しているが、そこに記載されている本は、各図書館で貸出を行っており、子供達に利用されている。

委員

先ほどの委員の話で、「小学校1年生にはこの本はどうか」と勧めることについて。個人の状況により、その人に向いている、興味を引く書籍というのは異なるのではないか。一概に「その年齢に合うもの」と渡されても、その人にとって合うタイミングとなるかどうか分からない。それならば、自身で図書館や移動図書館へ出向いて、自分で自分の読みたい本を選ぶという経験を多くしてもらおうというのも大切ではないか。小学校の図書館を開放するとか、市立図書館へみんなで行く時間を多く取るとか、そのようなことが求められているのではないか。

委員

先の委員の意見で、子供はなかなか本を手にとらないというお話を聞いて思い出したが、あるおはなし会を行った際、子供が本に対して興味を持ったことがあった。もともと本に興味がないと思われた子でもおはなしを聞いて、読みたいと言ってくる子も多い。

現在、おはなし会の活動をしている横曽根図書館は知名度が低い。比較的声かけし易い市立の小学校や保育所以外に近隣の私立の保育園や幼稚園にも働きかけはできないか。図書館に行こうと思う方が増えるのではないか。

事務局

改めてそういったところへの周知は必要かと思うが、今後相談しながら実施についてなるべく前向きに考えたい。

委員

資料のなかで、2ページにある「どくしょノート活用」のなかの50冊読んだ際にもらえる認定証は、全図書館で実施しているものなのか。こういったインセンティブみたいなものがあると、読書が進むのではないか。これは中央図書館だけなのか、全図書館で配布しているものなのか、また今後、そういったものを広げていこうと思っているのか。さらに、50冊読んだ中から、実際に見た方からお勧めの本を紹介するのは説得力もあり、とてもよい取り組みである。これを全図書館に広げられるといいのではないか。

同じく2ページの「2 地域における子どもの読書活動の推進」で、「本の選定基準に従い」とあるが、どこに記されているか教えてほしい。

10ページの「オンラインによる見学」は、映像化されたものがアーカイブとして出ているのか。リアルタイムでオンラインを見なくても、YouTubeのようにアーカイブを見れば、オンライン図書館を体験できるものがあるのかどうか教えてほしい。

事務局

読書ノートについては、中央図書館だけではなく、地域館も含めて全てで行っている。オンラインの図書館見学については、アーカイブは特にない。私共としては、実際に子供たちとやり取りをすることを目的としている。図書館の紹介の動画はあるが、図書館見学のアーカイブはない。

選定基準については、図書館のホームページに「川口市立図書館資料収集方針および選定基準」が掲載されている。

委員

電子図書サービスについて。どんな本でも電子化して貸し出し可能なのか、貸出されている電子図書が限られているならば、図書館から希望してもできないものなのか、教えてほしい。

事務局

電子図書は、図書館で利用を許諾されているものの中から、選定を行っている。全ての紙の書籍が電子化されているわけではない。

委員

司書の方が学校に出向き、お話しされて、その時は興味を持って、その後、実際に図書館へ出向き、本を借りるまでとなるとハードルが高いと感じた。小学生に配布されている電子タブレットを使用して、その場で電子図書を借りることができれば、子供が興味を持った瞬間に自身ですぐ行動に移すことができ、ハードルが下がるのではないか。司書の方が選んだ本が電子化できるのであれば、子供たちが本に接する機会が増えるのではないか。是非、検討して欲しい。

事務局

図書館の担当の方でも共有し、参考にする。

委員

在籍している学校において、中央図書館へ小学校3年生の社会科見学で訪れている。秋の読書週間では、ブックトークをお願いし、子供たちの興味関心を高める活動を行っている。また、近隣の公民館へ移動図書館が来ているため、1, 2年生が実際に移動図書館を見に行き、その場で本を読むこともしている。

教育課程との関連で言うと、学校と図書館側でお互いに連携し、出前授業のプログラムが増えていけば、結果として子供たちが本に触れる機会が増えるのではないか。小学校の中でも、この学年のこの教科、この単元では必ず本を利用して調べる学習をして行くとか、あとは、作者にもっと触れて読んでいくという活動をこれからも行っていけば本好きな子供たちが増えていくのではないかと思う。

委員

図書館でおはなし会を行っていることを知らず、図書館へほとんど行かないという子も多い。そのためには、保護者に対しての周知も大事であるし、保護者自身にも図書館を楽しんでもらえると、子供と一緒に連れて来てくれるのではないか。

戸塚図書館のおはなし会では多くの方が参加しているが、最近は父親の参加も多く、熱心に聞いている。お子さん連れで図書館へ来ている保護者の中には、ずっとスマートフォンを見ている方もいる。常にスマートフォンを持っていて、調べものも全てスマートフォンで行っている。育児書ではなく、

今は全て、スマートフォンの時代のため、そのような保護者の方にも本を楽しんで欲しい。1つ提案であるが、各館によって条件は異なっているようだが、図書館のおはなし会に大人が入ることを、大きく打ち出していくことで、多様な年齢層が参加できることから、「子供から大人まで皆で一緒に楽しめる、子供を連れていけば保護者も一緒に楽しめますよ」という周知をしていってもいいのではないか。部屋の広さから難しいこともあるかもしれないが、今の時代、大人が動かないと子供はなかなか図書館へ来ない時代だなと実感している。

事務局

現在、中央図書館では大人が参加すると雰囲気が変わってしまうということで、子供たちだけの参加としているが、大人の参加については、検討する。

委員

現在の学校の現状として、国の求める学びの姿の1つに探求学習があり、調べるために、本を使用することが多い。現在、川口市立高校では中央図書館と連携し、本を充実させている。純粋に楽しむものや、他人の経験や人生から、自分の生き方の学びになるような本もあるが、最近の高校生は、調べるものが偏っている傾向があるように思われる。現在、様々な取り組みをしているかと思うが、子供のうちから多くの分野の本を読むような取り組みをより一層充実させて欲しい。

他に意見・質問なし

○ 議題ウについて、 資料3に基づく

[意見・質問と回答]

意見・質問なし

○ 議題エについて 資料4に基づく

[意見・質問と回答]

意見・質問なし

[その他の意見・質問と回答]

委員

現在の中央図書館の改築の際、記念講演を行ったと思うが、今度、横曽根図書館も新しくなる。図書館でどなたかを招いて講演会があると嬉しい。講演会などの予定はあるのか。

事務局

横曽根図書館の改築もあるが、中央図書館も来年度、改築から20周年ということもあり、講演会等の話しも出ている。検討はしているが、講演料も含め、作家の方を招いてということになるとなかなか難しい。別のかたちで、あまりお金をかけずに何かを行いたいとは思っている。

委員

横曽根図書館が新しくなったら、大人向けのおはなし会を開きたいと考えている。図書館主催で行えるのか、ボランティア団体主催で実施するのか、図書館側とはまだ話し合っていない。ボランティア団体主催の場合、市の広報紙へ宣伝を掲載してもらいたい。大人の方でもお話しを聞きたいという方も増えているため、できれば、開館記念ということで、図書館主催で実施を検討してもらいたい。

事務局

大人向けのおはなし会だが、7月26日（土）に中学生以上を対象とした大人の方のおはなし会を図書館主催で実施する。それとは別で大人の方を対象に開館に際してということなので、後日改めて相談したい。

他に意見・質問なし

以上